

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕（店長）	来客数の動き	・周辺ファッションビルや新店のオープンなどが重なり、来客数が多くなっている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・1人当たりのまとめ買いの量に変化はないが、来客数、買上客数を見ると、一時期の落ち込みから徐々に回復している。また、売上は前年実績を超えており、こちらからも回復傾向にあることがうかがえる。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・8月以前に物流の停滞及び部品の不足などにより滞っていた部分が回復しており、受注残としての台数が登録・売上へと結びついている。そのため、業績としてはやや好調に推移しており、また修理部門も浮き沈み無く堅調に推移している。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・東日本大震災後の車両生産体制は完全復旧し、販売台数はエコカー購入補助金があった前年同月と比較すると7割まで回復している。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・東日本大震災の3か月後から、平日は法人接待、週末は個人観光客の利用が安定している。大型台風の直接被害もなく順調に推移した。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・個人客を中心に前年並みに来客数は戻っている。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上は前年同月比108.2%、宿泊人数は同108.7%、消費単価が同99.3%となった。宿泊人数別の売上は、1～14人以下は同102.9%、15人以上は128.9%と団体客が増えたことが前年の売上を上回った要因といえる。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・震災の影響が残る3か月前に比べ、欧米からの観光客数の回復が遅れているが、国内の観光・ビジネスなどでの宿泊予約数は順調に推移しており改善傾向になっている。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・台風の影響で中止、取り消しがあったものの、団体旅行については順調に復調している。個人については相変わらず手控えている模様であり、まだまだ厳しいのが現状である。	
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・人気ショップの出店と百貨店の改装、ファッションビルのリニューアルなど好材料がそろい、また街なかのイベントも多彩に充実し、北陸全体からの集客ができた。駅前から中心部まで人であふれている。2回の3連休の人出もまずまずだった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・9月に入っても暑い日が続き、秋物購入の客が少なかった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は土日をはさんで2回3連休があったが、天候が良かった割には人出は少なかった。台風の影響もあるだろうが期待はずれだった。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	お客様の様子	・プラスチック材料もなければマイナス材料もない。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・全社的な販売目標には届かないが、2、3か月前からは悪い中でも横ばいが続いている。
一般小売店〔書籍〕（従業員）		販売量の動き	・販売数が伸びている感じはなく、相変わらず顧客の消費に対する考えは厳しい。	
百貨店（営業担当）		お客様の様子	・客の購買額が増えたわけではないが、家の中の消費から、ファッションを楽しむとかトレンド商材を購入するとか外に向けた消費に移ってきた。秋のトレンド商材は早めに動いている。	
百貨店（営業担当）	単価の動き	・寒暖の差が激しい月であったが、先の見えない天候だからこそ、一足先に温かみのあるウールやファー、中綿物の衣料が好調であった。		
百貨店（売場担当）	単価の動き	・売上は今年度累計で前年同期比100%の横ばい状態であり、来客数は同じく累計で同95.6%、結果として客単価は伸びて同105%となっている。今月は、気温の変化、台風の影響もあり、ファッション衣料を中心に好調に伸びているものの、宝飾高額品が前年より悪く、同89%と不振が続いている。		
スーパー（店長）	お客様の様子	・残暑の影響で夏物の衣料品の在庫消化率が良く、売上は前年同月比102%と伸長し、さらに食料品は100%となった。		

スーパー（総務担当）	来客数の動き	・中旬の台風の影響で来客数が減少し売上が低下したものの、その後気温が低下して売上が回復した。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・盆以降、1人当たり買上点数は前年並みに回復し、9月も同様である。ただし1点単価はやや低下しており、同じ品なら安い時に買う、同じ品種で単価の安い品を買うといった節約ムードは止まらない状況である。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・たばこの値上がりで客単価は高止まりしているが、来客数の下落が止まらない。約3～4%の減少が続いている。しかし、おでんやフライドフーズに関しては前年より好調に推移している。
コンビニ（店長）	それ以外	・売上は若干であるが前年同月を下回るものの、ほとんど変わらない状況である。
コンビニ（店舗管理）	お客様の様子	・低価格の弁当などを支持していた工場勤務客の来店が減っている。円高の影響を感じる。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・秋の改装などによって売上が好転している店舗もあれば、なかなか前年を上回らない店舗もあり、一進一退の状況である。
衣料品専門店（総括）	お客様の様子	・客は先行きに不安を感じているようで、現状では動きにくいように見える。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数は増加傾向にあるが、販売量は変わらない状況である。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・秋商戦が値引きを始めとした購入条件でスタートした。売行きは商品力と顧客対応の勝負となり、油断の出来ない商談が続いているが、結果は努力した分に比例しているため当分この状況は続く。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新商品が発表されたが受注量が増えない反面、購入後の保証や充実したアフターサービスなどメンテナンスパッケージ商品が順調に売れている。長く乗るとの意思表示と考えられる。
住関連専門店（店長）	お客様の様子	・依然としてあまり変わりがなくやや悪い。客の動きもかなり慎重に買物している様子である。
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・この季節に動くべき商品が動いていない。
その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	販売量の動き	・生活に必要なものを中心に販売しているため、このコアな部分の売上はやや伸びている。そのため、その他の部門の売り上げ減少分のカバーができており、全体的には変わらない。
旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・東日本大震災後の自粛ムードの影響はなくなってきたが、企業の業績が回復基調に入っていないためか、法人需要の回復に力強さが無い。
タクシー運転手	来客数の動き	・タクシー利用が少なかった。理由として、8月に金を使ったこと、今月は3連休が2度あり天候にも恵まれたためショッピングにはマイカーや公共交通機関などを利用したこと、連休があったため病院に行く人もその機会が減少したことなどが挙げられる。
タクシー運転手	販売量の動き	・前月に引き続き、前年並みの売上となった。
通信会社（職員）	それ以外	・今のところガソリン価格は落ち着いているものの、株式市況は良い材料もなく、全体的な景気も様子見の状態が続いている。顧客の反応も現状維持といった気配が強い。
通信会社（社員）	販売量の動き	・スマートフォンの販売が好調である。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新機種発売後スマートフォンの人気が高まり、全体の売上のはば半分を占めている。来客数も増加しているが、携帯電話全体の販売台数を比較すると、あまり変わっていないのが現状である。
競輪場（職員）	販売量の動き	・イベントの影響で来客数は増加したものの、売上は以前と変わらない。
美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少が当たり前になっている。それを改善する術がなかなか見つからない。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・現在動いている客層は、属性が良いか親からの援助が期待できる層であり、限定されている状況は変わらない。
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・イベントなどの集客率が高いが、契約までの時間が長くなるようになった。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・景気が不安定で消費者の買い控えや慎重な動きを感じる。

やや悪くなっている	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・エリアでは新規オープンもあり集客は高まっているものの、顧客の購買意欲が高まっていない。前年と比較し気温の低下もあり期待感はあったが、実績が伴っていない。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・盆明けの8月20日くらいから来客数が減少し始め、9月に入ってからは、前年同月と比較すると1割程度減少している。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年同月比100%を下回っており、買上点数も伸び悩んでいる。	
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年秋から前月まで売上前年比が110%前後と好調を続けていたが、今月はたばこ値上げ準備のまとめ買いという特需があった前年同月と比較すると93%程度にまで落ちた。	
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前半は暑い日が多く、急いで秋物を買求める客は少なかった。	
	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・消費者には生活に余裕がない。5～6年前は、9月に入ると暑いと言いながらも秋物の受注があったが、ここ2～3年は9月前半は全く静かである。今年は9月後半になっても受注がなく不気味である。	
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・テレビの販売減の影響が予想以上に大きく、来客数の極端な減少が他の商品の売上にも波及している。	
	自動車備品販売店（従業員）	単価の動き	・盆明けより集客面では大きな減少になっていないが、趣向品を中心に単価低下が大きく、前年からもダウンしている。タイヤ、オイルなどのメンテナンス関連も長距離ドライブ縮小の影響で低迷している。	
	一般レストラン（店長）	単価の動き	・3か月前と比較すると客単価が低下している。	
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夏休みが終わっても盆明け後の低迷した状態が続く、平日・土日祝日に関係なく落ち込んでいる。こんな時間と思うような時間帯にスーパーで買い物している人が多くなったと感じる。タイムサービス狙いで必要なものだけ毎日購入しているように思う。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・繁華街も全体的に人通りが少なく、当店でも年配客が中心で定年を迎えると足が遠のき、絶対数が少なくなり、経営的に四苦八苦している。しかし、売上は前月の最悪の状態を脱し、前年同月をやや上回った。また、職種によるがますます悪くなっているという話を耳にする。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・レストラン部門は概ね好調に推移したものの、宿泊部門、宴会部門が苦戦し、全体としては前年を下回った。	
	通信会社（役員）	販売量の動き	・当地ではアナログ放送が終了し、ケーブルテレビに対する関心も薄れつつあると考えられ、新たな契約獲得件数も低下傾向にある。	
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・3連休が2回あったため、前年同月比では、個人旅行の動きはプラス傾向にあるが、6～7割を占める団体旅行客、なかでも一般企業の団体、募集ツアー、海外からの観光客が前年同月比2割減の水準となった。全体としては来客数は前年同月比1割減少となった。	
その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・残暑、長雨など天候不良による来客数の伸びの悪さが目立った。		
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・展示場に来場される客数の減少幅が大きく、下げ止まらない。		
悪くなっている	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・スマートフォンを欲しがっていた客にはある程度いきわたり、型落ちした廉価機種も在庫がなくなり、いよいよ新商品待ちの客が残った形になる。近日中に新商品発表が予定される中、買い控えが発生している。	
企業動向関連	良く なっている	-	-	
	やや良くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・販売品目の商品構成が変化している。既存の高価格、高付加価値商材の販売量が増えている。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・5月を底にして少しは荷動きが良くなっている。軽油価格も若干下がっているのも良い傾向である。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・北陸3県の通信機器の販売は、全体として需要が上向いていると感じる。特に、富山は目標にも達しており好調である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・海外向けの機械製造業にやや受注が戻っている。また、百貨店の売上についても前年に比べて安定感が出てきた。
司法書士	取引先の様子	・店舗用敷地の売買など、新しい事業のための取引が複数あった。		

変わらない	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・全体の受注状況は、ここ1～2か月安定している。	
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅市場もこれ以外の市場も受注量が伸びている状況にはない。	
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・円高のため海外受注は厳しい状況である。	
	電気機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・電子部品関係ではスマートフォン関連が非常に好調であるが、一方、その他のデジタル製品関連では、新製品が出にくい環境になっている。	
	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ何か月かの生産量は総量的にはほぼ変わっていない。また、国内販売量も比較的堅調に推移している。	
	輸送業（配車担当）	取引先の様子	・燃料費の高騰が収まらずコスト増になり、これに伴い受注も減少している。	
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産取引が少ない状況に変わりはない。	
	税理士（所長）	競争相手の様子	・取引している会社でみると、同業種のなかでも良いところと悪いところがあり、中小企業の場合、会社による格差が開いている。税理士業界でも中小企業数が減少しているなかで、取引先を伸ばしているところもあれば減らしているところもある。	
やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円高に加え、差別化製品の有力輸出先である欧州の景気後退の影響で、主力のスポーツ素材の受注が減少し始めた。	
悪くなっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・6月市議会にかけられた市発注工事の案件は皆無で、ようやく9月議会にかけられた。この3か月間の発注の遅れは、県や市の工事に依存する地元建設業者にとって深刻な痛手であり、この先の経営見通しが立たない。	
	建設業（総務担当）	それ以外	・東日本大震災以降、徐々に建設資材の一部や外注費が上昇しており、コストアップによる工事の採算性低下が顕在化している。	
雇用関連	良くなっている			
	やや良くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と比べて求人情報誌1回あたり30件ほど掲載件数が伸びた。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・一時的な人材需要件数は増えている。内容的には専門的、技術の高い人材需要のため、マッチングが厳しい。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・9月は契約更新の節目でもあるが、継続案件がほとんどであり、新規の引き合いが少ない。また求人側のハードルも高いため採用に至っていないケースも多い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は、前年同月と比較して1割増である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・今月の新規求人数は、前月と比較して横ばいと見込まれるが、求人の雇用形態をみると、臨時求人数の増加が目立った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は2桁の増加となっているが、これは緊急雇用対策の求人が増加しているためである。
		民間職業紹介機関（経営者）	求職者数の動き	・人材紹介、派遣とも求人が少なく、登録者も減少している。事務系正社員志向が多く、一つの求人に求職者が殺到していると応募者から聞いている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・8月、9月と求人数が伸びている。特に介護関係の職員の求人について活発な動きが見られる。
	やや悪くなっている			
悪くなっている				